

シネマズライフ

2012年9月21日発行 第24号

<http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

貴樹 諒音(たかぎ りおん)

映画の風景 日本の風景

※ 広島県・原爆ドーム ※

優達が犠牲になり悲惨な死を遂げる。被災当日は無傷の人でも、放射能は日に日に体を蝕んでいくのだ。日本も福島第一原発で、被災した人々が恐怖に晒されている。「無害」「気がする事はない」という人もいるが、私は放射能はまだ研究し尽くされていないものだと思っっている。そんな軽く言っているのか。被害者はそんな言葉だけでは安心できない。原発事業を続けたいかもしれないが、軽く発言する事ではないと思っっている。



原爆ドームは今でも悲劇を伝えている。

昔『さくら隊散る』という映画があった。こんな映画だ。東京・目黒の天恩山五百羅漢寺。ここには「移動演劇さくら隊原爆殉難碑」があり毎年8月6日原爆忌に縁の人びとが集まり法要を行われる。『さくら隊』とは、戦時中各地を回った「移動演劇隊」の一つ、広島に滞在中原爆に遭遇。亡くなった者もおり、生き残った人びとも被災して死を迎える事になる…。映画では将来を期待された俳優・文

『さくら隊散る』1988年 日本 製作・脚本 監督：新藤兼人 出演：吉田将士 末永貴子 八神康子 川道徳介 滝沢将 小沢栄太郎 宇野重吉

被害者の人達が次々と放射能に倒れていく様子を描く。今・放射能の影響を危惧する人が多いが、一番の原因は国が影響のほんとのところをはっきりしない事が原因だと思う。

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！



『シャレード』

WOWOWシネマ

1963年 アメリカ

監督・脚本：スタンリー・ドーネン

原作・脚本：ピーター・ストーン 音楽：ヘンリー・マンシーニ

出演：オードリー・ヘプバーン ケイリー・グラント

ウォルター・マッソー ジョージ・ケネディ ジェームズ・コバーン

9月23日(日) 10:00 10月31日(水) 11:00

バカンス中のレジーナは、謎の多い夫のチャールズとの離婚を決心していた。ところが帰宅したレジーナは驚く。アパートはもぬけの殻・チャールズは家財道具をすべてを競売にかけ、その落札金25万ドルと共にフランスから列車に乗り国外に出ようとして列車から落ちて死んだというのだ。彼女に残された物は、小さなバッグに手帳、櫛、万年筆、レジーナに宛てた切手を貼った未投函の手紙とパスポートが4通も。チャールズの葬儀は実に寂しいものだったが、妖しげな三人の男がチャールズの死を確認し落胆して帰っていった。しばらくして、レジーナはアメリカ大使館のパーソルミュに呼び出され、チャールズがアメリカ軍の金塊25万ドルを仲間と共に横領していた事を知る。葬儀に来た三人の男が仲間とレジーナに金を返せと迫る…。レジーナにオードリー・ヘプバーン。何かとレジーナを助ける謎の男にケイリー・グラント。テーマ曲は映画音楽のスタンダード曲。

『シャレード』とは「お遊び」の事。【映画】での「お遊び」…実に贅沢な映画なのです。

『ミッドナイト・ラン』

WOWOWシネマ

1988年 アメリカ

製作・監督：マーティン・ブレスト

出演：ロバート・デ・ニーロ チャールズ・グロディン

ヤフェット・コッター

9月25日(火) 10:45

警察を止めバウンティ・ハンターをしているジャックは、保釈金融会社社長のエディからギャングのセラノの会計士をしていたが、ギャングの金を横領して慈善事業に寄付した男・マデューカスを探す事を依頼される。彼はセラノの重要な証人なのだ。早速、マデューカスを探し出し飛行機でロサンゼルスへ帰ろうとするが、なんとマデューカスは飛行機恐怖症だと言いつつ飛行機の中で暴れる始末。しかたなく電車でロサンゼルスで向かうが、連絡のないジャックに業を煮やしたエディが別のバウンティ・ハンター・ドフラーに頼んでおり、列車の中でジャック達と遭遇。一悶着あった後、ドフラーを列車に残しジャック達はバスに乗りかえる。

一方・ジャックは、マデューカスを探すのをFBI捜査官モズリからの協力の依頼を拒否、ついでにモズリの身分証を盗み偽装して使った為、ジャックとマデューカスはギャング・FBIから追いかけて回される事になる…。

当時としては珍しいロバート・デ・ニーロのコメディ。主演の二人を始め登場人物全員がいたってまじめでなぜか面白いという珍しい映画です。

☆ ネットでも読めるミニコミ誌です！主に映画の紹介とコラムです。よろしかったら、コメントで感想・お叱りお聞かせください。

よろしくお願ひします！

m(_)_m

貴樹 諒音

☆ 【最近のこれはお見事！】は、見事な映画の題名の紹介しませんが、これは、まずいぞ！と思っ映画の題名を紹介しませんが、

【最近のこれはまずいぞ!】「最強のふたり」

映画はよかったが、内容がどうしようもない人種間の壁をどう乗り越えるかの話で、ふたりが釣るん
で何かをする訳でもなく最強な訳でもないのだ。いい題名なのだが、なんだか残念!

出演：京マチ子 水戸光子 田中絹代
監督：小沢栄

「雨月物語」

1953年日本
原作：上田誠成
監督：溝口健二

戦国時代、陶工の源十郎は妻の宮木と息子の源市とつつましく暮らしていた。しかし、源十郎は大儲けしたい為に、焼き物作りに励む。だが、ささやかな幸せを望む宮木は不安に思う。一方、義弟の藤兵衛は、侍になる事を望むが、具足と槍をもつてこいと云われ落胆する。焼き物が焼き上がり源十郎と藤兵衛は、長浜へ売りに行く。焼物は売れ、大金を手にした藤兵衛は、具足と槍を買い侍になり、源十郎は焼物を大量に買う若狭という品のある女性に、届けてほしいと頼まれ、屋敷を訪れる。戦の為、侍女と若狭と二人きりと聞かされ、源十郎は若狭にも魅せられ帰る機会を失う。が、そこで



江戸時代の読本『雨月物語』の挿話を元に、人間の愚かさ、浅はかさを描き、その一方で人を愛するといふ事の嬉しさ、恐さ、悲しさを感ぜさせて暮れる映画だ。
源十郎を感わず貴族の女に京マチ子。一方、夫をひたすら待つ宮木に田中絹代。もし、このキャスティングが逆でも、二人の女優は名演を見せてくれると思ふ。過去の女優の演技の深さを感じさせられる。
お話は、現実を見ずに【空虚な願望】に振り回される人間の愚かさを描く。今でも、愚かな人間が多くなる。だから人間なんだなとつくづく思ふ昨今です。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema

コラム
【責任】を取るといふ事。
前編

ここ数年政治・教育界で【責任】を取らなければならぬ人が【責任】を取らない事が異常なほど増えている。決まっていた普天間基地移設を停止し、現在の沖繩の混乱を招いた鳩山元首相・福島原発事故で混乱を助長させた菅元首相。
そして、大津のいじめ事件。校長も担任も無責任でとんでもないのは確かだ。校長達が自分の保身ばかりを気にしたりして、『いじめ』の隠蔽などを行ったからだといふ。
しかし、だからと言って橋下市長の提唱する校長の公募とはどうなんだろう? 公募の最初の頃には応募が少なく、民間に頼みインターネットで募集。それにしても少ないと思う。それだけ校長という職業はきびしいという事。普通に考えれば簡単に判断できる。しかし東京で民間から校長に就任した人は今のところ成功したという事になっており、現在・この校長は



橋下氏の下で大阪府特別顧問(政策アドバイザー)を勤めている。大阪での民間校長募集はこの人の肝入りのようだ。しかし、この人は東京でたくさんの中から選ばれた人。選んだ人も教育委員会のベテランの方達だったと思う。
だが、今回の募集では選ぶ人は『外部有識者』だそうでも、もちろん大阪府教育委員会特別顧問の民間校長経験者の方も選ばれるのである。しょうが、しかし他の『外部有識者』って誰? どんな人? 大いに疑問があります。つづく。
学校では元気でありますよ...と思ふのですが。

※編集後記※
☆『勇者MUNTA魔王の城』の第二弾『勇者MUNTA悪魔の城』が10月からオンエアされる。新進気鋭の映像作家・福田雄一の作品。トリッキーな内容で私には大いに受けた番組だ。映画化なるかな? と思つたが、その気配もなくちよつと残念。最近では、どうでもいいようなお話でも、スポンサー付いて映画になれば、CMなどを流してある程度観客が入ってヒットするけど、『MUNTA...』のように、作家の思い入れのあるお話はスポンサーの注文がうるさいからか、映画化される事は少ない。ほんととは、そういうことだわりを持つた映画こそ面白いんですけどね。
☆もう、9月も後半。やつと涼しくなってきたって感じですが。いや、急に寒くなる気が...
みなさま、体調にお気をつけてくださいませ。
あ〜、リカバリせな!

【最近のこれはお見事!】『悪の教典』

予告篇を見ると、『バトルロワイヤル』のように意味不明の殺人ゲームのようだが、巷の資料を読むとそうではないらしい。また、予告に騙されそうになりました。

